



森の息吹

No.133 5月号
2017. 4.30 発行
編集代表：五賀利雄
0133-26-3738

4月の活動報告

今年度の活動が始まりました

★ 椎茸の植菌作業と記念植樹の冬囲い外し

4月23日(日)参加者 13名+見学者1名 天候 晴れ

今年度最初の活動は道民の森管理事務所が森林環境教育事業の年間スケジュールの一環として開催しているシイタケの植菌作業の手伝い(ホダ木づくり)でした。

材のミズナラは紅葉の頃から2月までに伐採し倒しておいたものを4~5月に原木として使用しています。90センチに玉切りされたミズナラ150本の内、シラカンバでは径の太い原木50本を任されました。担当者から説明を受けたのち、毎年恒例の活動であり、慣れた手つきでドリルの穴あけやコマ打ち(約1500個)など行いました。



また当日の参加人数も多く簡単作業なので初めての方でも順調に作業をこなし1時間程度で終わることが出来ました。最後に各参加者に原木1本と原木シイタケのつくり方パンフをいただきました。来春にはニョキニョキと美味しい椎茸を食べることが出来るのでしょうか。(楽しみ)



終了後は5月に予定していた記念植樹の桜の木の冬囲い外しを先行実施し当別ダム公園にて桜の縄をほどいたり木の様子を観察したりしました。昨年に補植した桜も元気に育っていました。桜の開花はまだではありましたが水量の多い当別ダムを眺め春の日差しの中、ゆったりとした活動となりました。

4月30日(日)「弁華別協働の森の会」の総会がありました。参加者9名です欠席された方には議案書を同封します



新規会員のご紹介

玉澤早苗さん



はじめまして、私は9年前に千葉市からスウェーデンヒルズに移住して来ました。シラカンバのことは、昨年、会員の宇田川さんに紹介いただいたことがきっかけになり入会いたしました。豊かな自然に恵まれた北海道で自然と触れ合う活動に参加したいとずっと思っていたので、シラカンバの皆様には良い機会とご縁を頂いたと感謝しております。これまでの人生で森との関わりといえることは唯一、高校卒業まで暮らした実家は農家で、いわゆる「里山」がありましたので、子供の頃そこを遊び場に使っていた原体験がある程度です。どうぞよろしくお願いたします。

5月の活動案内

5月7日(日)B班 午前で終了

内容 植樹・山菜リスト作り
作業場所 弁華別協働の森
集合場所 山田氏倉庫前 集合時間 8:45
持ち物 腰道具・刈払機・軍手・飲み物・苗植え道具

5月28日(日)A班

内容 下草刈り&整備
140年の森&弁華別中学植樹地、青山苗圃
集合場所 山田氏倉庫前 集合時間 10:00
持ち物 腰道具・刈払機・軍手・昼食・飲み物

※欠席の方は活動日4日前までに班長に連絡を！！

小笠原 信男

青空のもと、吹きわたる風を感じながら樹下の陽だまりや河原などの傍らに居ると居心地が良いもの。そんなところで食べたり飲んだりすると、何故か粗末なものでもおいしく感じる。自然に囲まれた環境がなせる業でしょうか。「シラカンバ」での活動時、作業現場の草むらの倒木に腰を掛けて食べる昼のおにぎりは、おかずがいらぬほどうまい…そんな場所で食事をしながら、時には天を仰ぎ、青空や移りゆく雲の流れをのんびり眺めていると、ひしひしと得たいしれないものが頭の中を浮かんで消え、一瞬幸せな気分にもなる。実に居心地が良く、ふと自分が“今生きている”との実感が湧いてきたりする。願わくは、そこに焚き火や炭火があると一層雰囲気をかもしだしてくれ、何か縄文の時代の一光景が思い浮かんだりし、野外で遊ぶことを好む者にとっては、この原始的な情景や時がたまらない…。

そんなわけで、自分の家の周りにもそういう環境を作れば、と思い“小さな林”をバックに猫の額ほどの小さな裏庭に、テーブルや椅子を置き、河原で集めた大きめの玉石を単純に積み重ねたコの字型かまどを設け、いつも自然の中にいるようなまねごとをし、楽しんでいる。毎年、春の雪解けとともに、火床(野外炉)を中心に配置したテーブル・イス類の位置を変え、気分転換を図ることが恒例となっている。これまで両隣が空き地であったので、周りに気兼ね

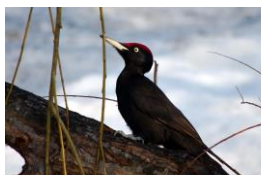
することなく楽しむことができた。…が、昨年の夏から秋にかけて両サイドに新しく家が建ち、それまでの状況が変わってきた。

いくら自分の庭でも、今までとは違ってそれとなく周囲の目線が気になるようになった。それなりに木を植えてみたり、椅子の置く方向に変化をつけてみたりするも所詮小さな空間だけにあまり変わりようがなさそうなので諦めることにした。

慣れると気にならなくなるかも、と思いつつ…！

でも、今でもそうした雰囲気を楽しむことが十分できていることには変わりなく、従前以上に日々アウトドアライフと親しみ、たわむれことが日課となっている。

最近、オープンカフェとか青空カフェという言葉をよく耳にする。札幌市内にも、そういう場所が増えつつあると聞いている。しかし車の往来の激しいビルの谷間の街路に面し、歩道にせり出した一角や地下街にあるそういうところへはあまり行きたいとは思わない。憩う場所には、樹木や花、静けさ、きれいな空気と水の流れる音、それに野鳥のさえずりがあれば申し分ない…。要は、その場所に身を置くことによって穏やかな気持ちになれるか、感覚が生まれるかどうか大事なのである…。やはり本物の緑や自然がなくては落ち着けない～。



木に触れて
林で遊び
森と育つ

編集後記

4月 春とは言え気温は低く風も冷たくさすがの北海道です。記録的小雪で雪融けは早くてよかったのですがハクチョウたちは乾いた田んぼでは落ち穂をついばむこともままならず早々と北に去っていきました。代わってカワラヒワの「キリキリコロロ」の美しいさえずりが聞こえ、水芭蕉、福寿草なども咲き始め春を演出しています。そう そう サクラももうじき咲くらあ～ (笑)

